

北欧から学ぶノーマリゼーション研修 ～共生社会の実現を目指して～

江戸川区熟年者福祉施設連絡会

〒132-0031 東京都江戸川区松島1-38-1 江戸川区社会福祉協議会

助成事業の概要

国は令和2年度に社会福祉法を改正し、「重層的支援体制整備事業」を創設した。この事業は市区町村、民間団体、地域住民など地域の構成員が協働して、包括的な支援と地域づくりに向けた支援を総合的に推進し、多様なつながりを地域に生み出すことを通じて、身近な地域でのセーフティネットの充実を図るものである。江戸川区では、令和6年度より重層的支援体制整備事業を実施し、地域共生社会の実現に向け、分野横断的な相談支援と参加支援、地域づくりの推進を掲げている。8050、9060問題など、高齢者とその子供の双方の支援、また親なきあとの障がい者支援など、複合的な課題に対する解決が求められている。本団体は、特別養護老人ホームを母体とする高齢者分野の支援を主とするが、今後必要とされる重層的支援体制に向けて、高齢者のみならず障がい分野への学び、ノーマリゼーションの理解を深め、江戸川区の求める重層的支援体制整備、及び地域共生社会の実現に向けた取り組みへの一助に、本研修事業の学びを活かすことを目的とする。

事業の成果

シンポジウム 幸せな国づくりセミナー「デンマークから学ぶノーマリゼーションセミナー」

(1) 日程 令和7年10月15日(水)

18時～21時

(2) 会場 江戸川区タワーホール船堀

小ホール（江戸川区船堀4-1-1）

(3) 対象 江戸川区関係部署、障がい者・高齢者支援団体職員、NPO法人、一般区民 ほか

(4) 参加者数 111名

(内訳：一般・学生・行政(23)、専門職(23)、施設連絡会所属(65))

(5) 内容

講演 「地方自治体の障がい者福祉への取り組み」

Hasse Jacobsen 氏

(オーデンセ市 障がい者福祉部長)

通訳：千葉忠夫氏

(バンクミケルセン記念財団 理事長)

シンポジウム

「今、日本に必要なノーマリゼーション 包括的ノーマリゼーション」

座長：千葉忠夫氏

オブザーバー：Hasse Jacobsen 氏

シンポジスト：

江戸川区社会福祉協議会 事務局長 岡村 郁子氏

特定非営利活動法人江戸川区相談支援連絡協議会 理事長 吉澤 浩一氏

江戸川区熟年者福祉施設連絡会 会長 林 義人氏

【講演】デンマークの福祉制度について説明いただく。

デンマークのような社会福祉国家は、国民全員が社会保障として受けることができ、医療・福祉・教育費は無料で、国民は平等、公平のもと安心した生活ができる。

デンマークでは、障がいについては、様々な理解の仕方があり、隠す必要はなくオープンである。

デンマークの人口約30%程度は障がい者。障が

いの早期発見のための健康診断については、妊婦にスキャンをすると障がいがあり、出産するかしないかは、女性が決めることとなっている。この取り組みにより、知的障がいの方を出産する確率が3分の1に減少している。出生後は、国民個々にホームドクターやケースワーカーがついている。障がいがあっても親から自立した生活が営めるよう、国からの補償もありノーマリゼーションの言葉が標準化された暮らしがデンマークには存在している。

【シンポジウム】各シンポジストより日頃の取り組みからノーマリゼーションについて発信する。

岡村氏：過去に関わったケースから、障がいについて考察。障がいが重度な方にどのように自身で選択し、自分らしく生活していけるのかが悩ましい。重度だからとラベリングをしてしまいがち。

林氏：保育事業の経験から。小さいころから障がいのある方々と一緒に過ごすことで差別が生まれないのではないか。人間の個性と捉え、小さい頃からその機会を与え、教えていくことが必要。お互いを受け入れ理解しあう社会がノーマリゼーションの社会といえるのではないか。日本は子供をいじめるような教育をしていないだろうか。知的水準をあげるだけでは福祉は良くならない。

吉澤氏：障がい者支援の経験から。障がいのある方が特別な存在ではなく、あたり前に生活できること、ソーシャルワークが身近にある社会が良い。選べなかった時代から選べる時代に変化している。

千葉氏：障がいの有無に関係なく、本当に望むことをすること、できることが必要。それぞれの個々人の問題として捉え、民が主である、主権在民、住みよい国を目指していただきたい。

成果の広報・公表

熟年者福祉施設連絡会所属の各会員施設では、実

施したセミナー、シンポジウムの報告を施設ごとに実施している。一つの参考としては、法人の文集にセミナー開催状況を掲載し、地域へ活動報告として発信を予定している。（年度内発行にて遅れている）また、11月の地域向けの介護に関する「介護の日」のイベント時に、当日セミナーの様子を写真に掲載し、デンマークと日本の違いやノーマリゼーションについてなど、福祉に関わりのない方々にも知っていただく機会として発信した。また、次年度に向けて海外研修を一部法人にて予定することとなり、本セミナーの様子や北欧についても情報提供し、各施設及び、他の団体へも情報提供することとなった。熟年者福祉施設連絡会の会議においては、当日の状況や会計報告などもあわせて報告した。今後、区内で開催される介護に関するイベントなどでも、本セミナーの様子を掲示するなど、披露していくこととする。

今後の展開

北欧の福祉を知る機会としてこれまでも複数回区内ではセミナーなど開催しているが、実際の目で見て体感するという一方で、海外視察研修など一部法人にて実施している。北欧には限らないが、日本だけでなく、海外の福祉を知ることで見聞を深め、より日本の福祉を見つめ直す機会にもなる。また、別の側面からは、施設で海外研修の機会があることは、学生をはじめ福祉業界を目指す者にとって関心も高く、人材確保の点からも、広くPRできるものにつながっている。豊かな人材育成、広い視野を持てる職員教育、また、海外出身の職員が多くなっている昨今、互いの違いを認め合うことができることも、働く職員にとって必要な要素となる。また、こうしたセミナー開催や海外研修の取り組みを地域や入居者家族にも発信することで、高齢者施設へのイ

メージの変革、人材育成への安心感にもつながって
いくものと認識する。魅力的な福祉業界としてオー
プンに伝えることの一つにもつなげていきたい。